兵庫教育大学
大学院同窓会
会報

第二七号

平成十五年三月一日発行
兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

同窓会活動への参加を

兵庫教育大学大学院同窓会長
吉田 廣

「花をのみ待つらん人に山里の雪間の草の春をみせばや」（藤原家隆）

この和歌は、谷口澄夫初代学長が第一回学位記授与式の式辞の中で修了生に贈られたものです。

性急に果実を求めるよりは、地道で忍耐強く、謙虚にして自信と未来への展望をもって進めという学長先生の思いが感じられるとともに、心のふるさとともいうべき大学との連携を図り、在学中に実らせた師弟・学友間の人間的なきずなを通して日本の教育界に清新な波紋を広げてほしいという強い気持ちが伝わってきます。

教育の実質を決定する最大の要素は、教員の資質や能力です。

危機的状況にある日本の教育界にあって、本学修了生が知識・技能・識見を、生涯を貫いて不断に磨き、教育の実践の場で十分に生かすことによって、日本の教育を改革できうると確信いたしています。

草創期においては僅少で点であった修了生も、線となり面的となって全国各地へと広がり、今や日本の教育界ではなくてはならない人材として活躍しています。

私といたしましても、大学創設の趣旨や目的を再確認し、初心に立ち返って会員同士の全国的交流を更に発展させるよう活動の充実を図っていきたいと思っています。

今後の主な活動としては、『現場からの教育改革』の配布、大学院修士課程修了生ネットワーク事業への協力、広報誌二七号の発行、同窓会島根大会の開催等を予定していますので、活動への参加・協力を切望いたします。

日本の教育の充実・発展を願い、「一隅を照らす」の気概をもって頑張っていきましょう。

追伸「修了生ネットワーク構想について」

大学と大学院修士課程修了生との相互交流を目的とした修了生ネットワークの構築準備のためアンケートを実施いたしましたが、平成14年11月末現在、922名の修了生から回答を得ることができました。ご協力誠にありがとうございました。

今後、大学はアンケートの結果をもとに、修了生のネットワーク設置の準備を行い、平成15年度の設置に向けて事務を進めています。

ネットワーク設置の際は、会員のご協力とご支援をお願いいたします。

なお、冊子「現場からの教育改革」は切手300円分で希望者に郵送します。次のところへ申し込んでください。

〒675―2112
兵庫県加西市栄町91 吉田 廣
電話
自宅(夜)0790―49―0751

現場の教育改革の方向性を探るヒントに！

大学院同窓会副会長（研究部）
岡本　喜代治

21世紀の教育の提言として、全国のあちこちから貴重なご意見を頂き、今、こうして「現場からの教育改革」のタイトルのもとで刊行された。手前味噌ではあるが、予想以上のすばらしい内容のある「提言Ⅰ」を世に上梓することができたと自負している。私は3回読み返した。その度に新たなヒントをこの提言集から得て、少しずつ実践に移している。ここに掲載させて頂いたご意見は、まさにこれからの日本の教育のあり方を示す本質をついて珠玉ばかりである。今、この〝珠玉集〟を校長室の自らの机上に〝鎮座〟させ、いつでも活用できる用意にある。

この提言集は、教育改革への発想が思い切った視点から出発していて、極めて具体的で、現実的な内容が多く、明日からでもすぐに導入できる。また、日本の教育改革として、早晩に、国家プロジョクトとして組み込まれてもよいような提言もある。さらに、心の中で強く願望していても教育界のタブーとして、誰も手がつけられなかったことを歯に衣を着せずに、理路整然と淡々と語っている内容もある。21世紀の日本の教育には、まさにこれが必要だったのだと感嘆させ、心の澱みを一気に浄化させてくれるような提言もある。

兵庫教育大学大学院同窓会として、全国に向けて発進した企画として、平成10年8月奈良支部が中心となって編集して刊行された「新しい教育を創る全国ネット――全国教員人材登録名簿――」に続いて、これは第2弾である。いずれも本会研究部の企画立案よるもので、会員諸氏の寸暇を見つけての奮闘の賜物である。これらが会員だけの〝情報誌〟に終わらせず、広く社会の啓発誌として活用され、そのことが地域の、引いては日本の教育改革の一助になってくれることを心より願う次第である。

21世紀の教育改革に21人の同窓諸氏に寄稿頂いたのも何かの因果を覚えるが、このなかでも私にとってひときわ異彩を放ったのは、上西一郎氏の提言であった。教育改革を具体的に実行に移していくのは、他ならぬ現場の教師たちなのである。その教師たちに教育改革のねらいや計画を提示して、指導していくのは、校長である。

上西氏は、英国の教育事情を視察して、授業崩壊、学力低迷、不登校問題等あらゆる苦悩の坩堝にはまっていた小学校が、ある校長のリーダーシップのもとで、見事に立ち直らせ、全英一斉テストで輝かしい成績をおさめることができたという報告をされていた。この報告を同業者として、食い入るように読ませてもらった。国語・算数・理科の合計得点（300点満点）の平均が44点しかとれない全校児童の実態であった。それが新しい校長の指導のもとで、3～4年後には282点までに急伸させたのである。これは〝信じがたい奇跡〟としか言いようがないが、その背景には、理屈にあった裏付けがあった。

改革の要点として3点ほどあったが、その中でも最も大きな要因となったのは、「校長としての人事権を行使し優秀な教員を導入（ほぼ、総入れ替え）して教材開発、授業研究・授業評価を促進し、教員研修と授業改善を急速に推進した」であった。日本の場合を振り返ってみよう。小中学校の校長には、教職員人事・学校運営予算・教育課程編制についての大きな権限が一切認められていないのである。

さて、本気になって改革していくには、どこから手をつけていけばよいだろうか。この提言集をぜひご一読下さい。寄稿者の皆さんのご尽力に感謝して、ペンを置く。

再び松江で会いましょう

大学院同窓会監事
島根支部　早川　求

兵庫教育大学大学院同窓会島根支部では、五地域持ち廻りで年一回総会を開催しています。こうした形をとるようになって、今年は五年目で、県内を一巡したことになります。結果は上々で成果を実感しています。

五会場方式をとることで、各ブロックが創意工夫し、以前にくらべ、総会が魅力的になって来ました。島根支部同窓会の会報も誕生し、今年は四号が発刊されます。総会の実施を契機に、地域の会員相互の交流が深まり、連帯の輪が確実に広がってきているのが何よりの喜びです。その他、島根支部では「退職者の激励会」と「大学院入学者の激励会」を開いており、県教育委員会の支援も得て、支部全体の活性化に努めているところです。

全国大会の開催はこの度が二回目になります。修了生の連帯の輪を広げる契機としてとらえ、よりよい大会の実現に向け鋭意努力をしているところです。様々な教育課題が山積する中で、豊かな資質と確かな指導力を持った教員が求められ、大学院の修了生には、当然のこととして多くの期待が寄せられています。同窓会としても、親睦だけでなく、研修の場としての同窓会の在り方を模索し、大学院同窓会としての望ましい在り方を検討する時期に来ているのではないでしょうか。全国の皆様と共に考えたいと思います。

開催地の松江市は、小泉八雲が愛した城下町、松平不昧を生んだお茶と和菓子の街でもあります。最近は堀川遊覧が人気を呼んで、年間六〇万人の観光客が訪れています。松江市で教育を大いに語り合いましょう。

元気です　山口
おいでませ　山口

大学院同窓会　広報部理事
山口支部　西川　敏之

山口県支部は会員約八十名。田中淳夫会長を中心に、相互啓発・親睦等に努めています。

支部活動の柱である、同窓会も十九回を重ねています。本会の特徴は、

(1) 総会・懇親会だけでなく、研究発表会も行う。三月修了生の研究発表も必ず入れる。

(2) 会の持ち方について、事前に理事で検討会を持つ。

(3) 日時を固定化―原則八月の最終土曜日―し、予定が立てやすいようにする。

等です。

本年度の研究発表会では、第二十一期修了生二名に続いて、桒原真洋先生が読売教育賞受賞

『自分の生き方が問われる社会科学習』
～山本さんは、みかん作りをなぜやめないのか～

を発表され、会員一同深い感銘を受けるとともに受賞を喜び合いました。

自己紹介では、持参資料等も使いながら、現在力を入れて取り組んでいることや近況報告がなされ、互いに啓発し合う密度の濃い時間となりました。

パネルディスカッション『総合的な学習の考え方・進め方』では、パネリスト（小・中・高各一名）の提案をもとに、活発な意見交換が行われ、課題解明が進みました。

総会では「同窓会山口県大会」等が話し合われ、担当者も決まりました。

「来たくなる、来てよかった」山口県大会になるよう、準備をスタートしたところです。平成十六年八月、歴史と文化が薫る町下関で、皆様方にお会いできることを心より願っています。

おいでませ　山口

おいでませ　下関

21世紀型学力を育てる総合的な学習の創造

講師　大阪教育大学　助教授　田中博之先生

本同窓会を8月17日(土)～18日(日)に、大阪市内の「ロッジ舞洲」で開催した。初日に、大阪教育大学の田中博之助教授を迎えて、標記の演題で約90分間の講演会を実施した。以下は講演内容の要約である。

はじめに結論から述べると、言いたいことは、「安易なドリル学習や土曜講座という〈学びの近道〉だけをたどることは禁物である。問題解決的な学習や総合的な学習という〈学びの遠回り〉こそ、子どもたちの教科の基礎基本を育てる真の近道なのである」ということである。そして、その学習の評価規準や評価基準を如何に各学校が、小・中学校『学習指導要領（平成10年12月14日文部省告示）』（高等学校はその翌年）が謳う「総合的な学習の時間」のねらい鑑みて、自校の実態に応じたものを作成でき得るのかと言うことであろう。

文部科学省の「生きる力」は曖昧であると言う。そのために、A「自己成長力」B「技能・スキル」C「態度・評価観」D「生活・社会適応力」の4領域に分類し、それを詳細に24項目の各々の力を設定して、更にその能力・力をそれぞれ3項目で具体的な達成目標を示し、それに沿って展開される学習の評価に関して、①学校設定観点・規準、②学年（学級）設定観点・規準、③個人設定観点・規準の策定を推進する。これを基軸に「指導と評価の一体化」から「〈学び〉と評価の一体化」へ進歩することで、学習評価の効果として、子どもたちが自己評価をし、自己改善に向かう構えを生成するとしている。その範に、揖保川町の小学校の「生き活きタイム」や京都市の小学校「雅のまこと」単元計画・学習展開（V.T.R.上映）・評価観点・評価規準を紹介する。

児童中心主義がもたらす、歌って、食べて、遊ぼうという「這い回る学習」型の「総合的な学習の時間」では、前述の「生きる力」がつけたいスキルは厳しいだろうと指摘する。むしろ、知識・応用のみならず、思考・判断が必要として、「基礎学力を基礎的な方法で学ぶだけでなく、問題解決的な学習や自主・自律的な学習において、子どもたちが主体的に身につけられるような〈豊かな学び〉を構成すること」と言う。すなわち、「基礎基本」と〈総合的な学習〉をどう結びつけるのか、〈教科〉から〈総合〉へ、〈総合〉から〈教科〉へ、ということである。正に、このことはイギリスのクロス・カリキュラムを想起させる。

最後にまとめとして、21世紀の教育は、子どもに「自己成長課題」（責任）を明確にさせて「自己評価力」と「自己成長力」をつけることと結んだ。

（文責）大阪大会実行委員長　小西　豊文

同窓会大阪大会を終えて

大阪大会事務局長
阿比留　喜久雄

各地より七十数名の同窓生が大阪の舞洲に集いました。舞洲は、二〇〇八年大阪オリンピックの主会場となる所でしたが、誘致合戦で敗れてしまい残念です。近くには、USJがあり、大阪活性化シンボルです。同窓会も大阪大会を機により活性化できたらとの思いで準備を進めました。

大会を迎えるまで、いちばん心配したことは、やはり参加者数です。百名以上の参加を目標にしました。

幸い、大阪は、OHU教育研究会（大阪府・市兵庫教育大学大学院教育研究会）の組織があり、年二回の総会と会員相互の研究や情報を交流するネットワーク通信を出しています。そして、OHU会員の多くが、現在、学校現場のリーダーや教育委員会事務局等で活躍しています。

ところが、開催日が大阪市管理職昇任試験と重なってしまいました。これはどうすることもできません。しかし、その中で試験終了後、かけつけてくれた人も多く、あらためて、同窓生のきずなの強さに感謝した次第です。

総会は、浜名、佐藤両副学長のご出席のもと滞りなく終了し、夕刻には、ロッジ舞洲で懇親会を催しました。

舞洲から見る夕陽は絶景で、淡路島、明石大橋を見渡しながら、社で過ごした2年間の思い出話に花が咲きました。お二人の副学長先生には、その後も日付けが変わるまでお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

同窓会は人と人とを結ぶ大切なきずなです。今、大学は、独立行政法人化に向けて大変な時代を迎えています。こんな時代だからこそ、人のきずなを一層強くしていくことが大事ではないかと思います。

大阪大会に参加して

大学院同窓会副会長（広報部）
山下　裕

「やあ！久しぶり。」「元気？」で始まる受付のフロアーでは、関係の府県から集まった同窓生が懐かしそうに語り合う姿がとても印象的でした。大学院で学び、労苦を共にしてきた仲間たちが、総会や研究大会で共通のねらいに向けて自己研修を行うよい機会ともなっています。

今回の講演講師は大阪教育大学の田中博之助教授でした。大阪の特徴を出す試みを含んでいるように感じました。講演内容は、今教育現場で実践している内容だったので、とても参考になりました。とりわけ、「生きる力」項目案の説明のなかで、生き方を考える力、問題解決的能力、豊かな心、対応力のユニークな評価規準の案に接し、学校運営に生かすことへの意欲をかきたてられました。

ところで、大学改革として平成16年から実施予定の独立法人化が進んでいる状況に接し、今後は、大学と同窓会の連携の在り方をより工夫していく必要があることを感じました。まずは、両者共通の名簿づくりからはじめていくことから、きずなを深めることが考えられます。これからは、いろいろな分野でよりよい情報の共有化を行うことが必要になってくると思います。

大阪大会での宿泊場所はロッジ舞洲のコテージでした。山口県の西川氏と和歌山県の浜野氏の3人と宿泊がいっしょでした。夜遅くまで、教育談義をしたことが、現在役に立っています。とりわけ、山口県は平成16年度の大会を開催する予定であり、とても前向きな姿勢に山口県の教育水準の質的な確かさを感じました。ちなみに、平成15年度は島根大会が予定されています。みんなで、よりよい大会にしていこうではありませんか。よき出会いを！

大学情報

二一世紀教育への提言 第一集 「現場からの教育改革」 明日の教育を考える会編 刊行

二一世紀を見据えた、兵庫教育大学大学院修了生による「教育現場からの教育改革」の提言集が平成十四年八月に刊行された。

中央教育審議会教育研究者等による「教育改革への提言」は見られるが、学校現場からの提言がまとめられているものは見あたらない。

「教育現場からの教育改革」の提言集を刊行する計画案が、平成十二年第二十回兵庫教育大学大学院同窓会（兵庫大会）総会で承認され、平成十四年八月に出版された。

「教育の不易と流行（中洌正堯兵庫教育大学学長）」と「日本の見える教育を期待する（上寺久雄兵庫教育大学第二代学長）」の序文に続いて二一世紀教育への提言の部は、「提言一：実践論から実践学へ…瀬川健二郎（教育基礎一期）」に始まり、：「提言六：教育現場から『教育の盲点』を考える…北村義彦（教育方法一期）」、：「教師としての基本姿勢確立を目指して 副題 明日を担う若き指導者のために…大高 忠（教育経営四期）」、「提言十六：基礎基本の徹底と発展的な学習の工夫 副題 教科の指導計画に各学校の特色を」…小西豊文（教育方法三期）」、「提言十七：教師の職能発達を支える校長のリーダーシップ 副題 先人の学習理論を再確認し、指導助言により授業経営力を高める…富久国夫（教育方法一期）」、：「提言二〇：総合的な学習の時間への視点…石川律子（社会科五期）」等が続き、最後は「提言二一：学校教育と地域教育との適切な距離…堀 康廣（教育一期）」。

いずれも学校教育の現場を経験している教師ならではの新鮮な内容に富んだ提言集といえよう。

なお、この「提言 第一集」をお求めになりたい方には、一冊につき三〇〇円切手を添えて次の所へ注文していただければ、送付されます。

また、兵庫教育大学大学院同窓会では、第一集の刊行直後から、続けて「二一世紀教育への提言 第二集」の刊行を計画しています。二一世紀教育への提言の原稿（A四判 四十字×四十字の二頁もの、原稿を印刷した物）にそのフロッピーを添えて左記に郵送して下さい。

送付先：〒673―1421 兵庫県加東郡社町山国二〇〇七の一〇九 兵庫教育大学学校教育研究センター「修了生二一世紀教育への提言」係り宛。

（文責）兵庫教育大学助教授 上西 一郎

兵庫教育大学附属図書館の教育実践資料収集計画にご協力を！

兵庫教育大学附属図書館では、創設以来、教員養成大学の附属図書館として教育関係資料を重点的に収集し、日頃から充実に努めてきているが、一層充実した教育資料の収集を目指して、修了生の同窓会員に協力方を要請してきている。

同館では、大学における学校教育を中心とした理論的、実践的な教育・研究を支援する一方、その成果を教育現場に生かす「教員のための大学」図書館として、実践資料を組織的に収集する計画を立てている。特に、大学院修了生の協力によりたいとしているのは、①文部科学省・県・市・郡等の研究指定校の報告書、「特色ある学校づくり」等各地域での同窓生の活動報告書等②同窓生の勤務校、教育委員会等において独自に作成した教材、副読本等③研究紀要、授業実践記録、「一年の歩み」等である。

収集資料の保存・公開については、①附属図書館内に「教育実践資料コーナー」（開架）を設けて利用に供する。②附属図書館OPAC（オンライン蔵書検索）で検索可能とし、Web上で公開する。

資料の送付先・問合せ先

〒673－1494
兵庫県加東郡社町下久米942―1
兵庫県教育大学附属図書館情報サービス係
TEL：0795―44―2062
FAX：0795―44―2509
E-mail:office-2062@office.hyogo-u.ac.jp

修了生その後の活躍コーナー

第4期　田畑　八郎（芸術系）

兵教大在籍以来二十年が経過した。尊敬して病まない数々の先生方や全国各地から集まった熱血教師の仲間から得たものは何にも替え難い財産になっている。最も嬉しかったことは、自分の研究の方向性が見出せたこと。私が所属した保科ゼミでは、先生直々の指導があって在学中に単著が出せた。また修了年の3月には、あつかましくも指導教員との共著本を出させていたたいた。そして修了後もゼミ仲間と共に「保科理論」を拝聴する機会に恵まれ、その玉稿は先生の単著『生きた音楽表現へのアプローチ』（音楽之友社）として出版され、多くの音楽関係者に高評を得ている。この本は現在、私の教育・研究のバイブル的存在になっている。

一方、修了時に真篠将先生のお薦めで発足した「兵庫教育大学音楽教育学会」は、現役の院生と修了生が一同に会して、親睦と研究成果を発表する場として現在も機能している。このことに対しても深く謝意を表したい。

研究成果の紹介として公表できるものはないが、広報部からの依頼なので、その後の活動状況をありのまま報告したい。

一、研究課題

（1）音楽科教育の原理・内容・方法に関する実践的・理論的研究

（2）S. K. ランガーのシンボル哲学やJ. デューイの教育哲学に基づいた音楽表現論、並びに演奏解釈論

二、所属学会・社会活動

日本音楽教育学会、国際音楽教育協会（ISME）、日本音楽学会、日本教材学会、日本学校音楽教育実践学会、日本デューイ学会、学校教育学会、兵庫教育大学音楽教育学会（会長）大阪ジュニアバンド（副会長）

三、著書（単著）

（1）『新・和音伴奏入門』音楽之友社

（2）『伴奏づけ課題一〇一曲集』kmp

（3）『伴奏づけ課題二〇二曲集』kmp

四、著書（共著）

（1）『和声応用のたのしみ』音楽之友社

（2）『翔んでる音楽教育とんでもない音楽教育』東京音楽社

（3）『ソナーレ・音楽科教育実践講座第一五巻』（分担執筆）ニチブン

（4）『新版初等科音楽教育法』音友社

（5）『新版中等科音楽教育法』音友社

（6）『音楽教育学研究1』音友社

五、翻訳書（共訳）

『音楽教育の現代化』音楽之友社

六、曲集（編著・監修）

（1）学生のための歌唱・合唱教材曲集『なごりの歌』音楽之友社制作

（2）グレード・システムによるアルト・リコーダー曲集『リコーダーの広場』音楽之友社制作

七、論文（2000. 3～2003. 3）

（1）「共感教育・共有行動の具現化をめざす音楽教育」（前述共著6）（2）「音楽科教材の社会学的意味作用の研究」（日本教材学会）

（3）「表現力を高める歌唱表現の技法」（日本教材学会）

（4）「歌唱表現のためのオリジナルナック」（岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要第一号）

（5）「音楽表現における〈情動ポイント〉についての一考察」（岐阜聖徳学園大学紀要第四一集）

（6）「S. K. ランガーのシンボル哲学に基づいた音楽表現論」（岐聖大教育実践科学研究センター紀要第二号）

（勤務先・岐阜聖徳学園大学大学院・同教育学部）

編集後記

第22回兵庫教育大学大学院同窓会大阪大会が平成14年（2002年）8月17日・18日に盛大に開催されました。大阪大会は、大阪支部とかかわりの強かった上寺久雄元学長や辻野昭前学長をはじめとし、濱名外喜男副学長、佐藤光副学長を来賓として招待されるなど、大学との結び付きを強く感じました。また、講師には大阪教育大学の田中博之助教授を選定され、21世紀型学力を育てる総合的な学習の創造について多くのことを学ばせていただきました。

ところで、大学が平成16年度から独立法人として運営されるとの情報をいただきました。教育改革をより身近に感じる大会でもあり、我々、小中高等学校等に勤務する教職員へのよい刺激となりました。

今回の会報は、大学からの情報提供や同窓会会員の研究成果（芸術系音楽）を載せることもできました。より工夫をしていきたいと思います。

（広島支部広報部）

第22回兵庫教育大学大学院同窓会・大阪大会

第22回　兵庫教育大学院同窓会総会（大阪大会）　平成14年８月17日　於ロッヂ舞州

▲懇　親　会

▲総　会

来年度は
島根大会で
集おう

期日：平成15年８月２日(土)
～３日(日)

会場：松江ニューアーバンホテル

▶巡検
ユニバーサルスタジオジャパン